

定例教育委員会会議録

(令和4年10月7日開催)

岡谷市教育委員会

定 例 教 育 委 員 会【議 事 録】

日 時 令和4年10月7日（金）
9時30分～

場 所 岡谷市役所2階 202会議室
署名委員 太田教育委員、高木教育委員

【次 第】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

1. 令和4年度全国学力・学習状況調査結果について【資料 No.1】（学びの創生・連携支援室）
2. いじめ・不登校の状況について（上半期）【資料 No.2】（教育総務課）

○ 報 告

1. 岡谷市教育委員会点検・評価報告書【資料 No.3】（全課）
2. 令和5年度予算編成方針について【資料 No.4】（全課）
3. アスリートフェスティバル in おかやについて【資料 No.5】（スポーツ振興課）

○ そ の 他

- ・行事等について（各課）
- ・その他

【次回開催予定】 11月8日（火） 13時30分～ 岡谷市民総合体育館 第一会議室

出席委員

教育長 岩本 博行、職務代理者 草間 吉幸、教育委員 太田 博久、教育委員 高木 千奈美、
教育委員 小平 陽子

欠席委員

教育委員 藤森 一俊

事務局（説明員）

教育部長 白上 淳、教育担当参事 両角 秀孝、教育総務課主任指導主事 濱 敦志、
生涯学習課長 伊藤 恵、スポーツ振興課長 小松 隆広、
学びの創生・連携支援室 学力向上アドバイザー兼統括教育支援主事 宮坂 享
教育総務課統括主幹 増沢 洋子、教育総務課教育企画主幹 西山 塁、
教育総務課学校教育主幹 横内 哲郎、教育総務課主査 新村 尚志

<会議録>

○開 会

岩本教育長：

本日は藤森教育委員さんが所用で欠席ということですので、よろしくお願いいたします。それでは、ただいまより令和4年度10月定例教育委員会を始めたいと思います。

本日の署名委員は太田教育委員さんと高木教育委員さんをお願いしたいと思います。

○教育長報告

岩本教育長：

気が付けば夏が過ぎ、秋らしい晴天の日が続くこの頃になりました。この2～3日は大変気温も下がって、初冬を思わせるような天気が続いておりますが、まだ秋の真ただ中かと思います。

秋と言えば、実りの秋、文化の秋、スポーツの秋、そして食欲の秋と、色々な楽しみ方がありますが、特に今年は、御柱の年ということで、小宮の御柱が各地で開催されております。

日中は、まだ汗ばむ日もありますので、感染症にも気を付けながら、子どもたちも安全第一で出来るだけ御柱に参加していただきたいと思います。

新型コロナにつきましては、県内の医療警報が解除され、警戒レベルも3に下がり、ようやく落ちつきが見られるようになりました。依然として、気を緩めることはできませんが、今月の16日からとお聞きしておりますが、オミクロン株対応のワクチン接種が始まりますので、一層の感染抑制に期待をしているところであります。

少しずつ日の入りが短くなり、秋の夜長を感じておりますが、特にこの季節は、朝夕の寒暖の差が激しくなります。委員の皆さんも体調を崩さないよう、短い秋を楽しんでいただきたいと思います。

それでは、本日も何点か報告させていただきます。最初に教育総務課関係についてであります。

最初に教育総務課関係について、ご報告いたします。

秋の学校行事が各校で実施されております。

小学校では9月下旬から10月上旬にかけ、修学旅行が行われております。

この2年間、新型コロナの影響により、小中学校ともに県外への旅行ができず、県内に切り替えて実施してまいりましたが、今年度は、2年ぶりに東京方面を巡る小学校が多くなっております。

国会議事堂や東京スカイツリー、或いは、京浜工業地帯の製鉄所等の見学先で子どもたちが熱心にメモを取りながら、説明を聞く姿が見られるなど、楽しみながらも充実した2日間を過ごすことができたのではないかと思っております。

岩本教育長：

中学校では、既に実施済みの1校を除いて、3校が10月中旬から11月初旬にかけて、京都・奈良方面、或いは、金沢を巡る修学旅行が計画されております。いずれも晩秋にかけて見どころも多く、しっかりと事前学習して、楽しい修学旅行にして欲しいと思います。

さて、本年度は小井川小学校と長地小学校が創立から150周年、上の原小学校が50周年という記念すべき日を迎えております。

各校とも、歴史を重ねる中で、幾多の素晴らしい人材を輩出してきた学校であります。来月には、各校の記念式典も予定されており、大きな節目となる行事が盛大に開催されるよう願っております。

つづきまして、生涯学習課関係の報告をさせていただきます。

生涯学習課からは、10月1日（土）に行われた「旧林家住宅 屋根修繕工事の見学会」についてご報告させていただきます。

旧林家住宅では、今年度、劣化の進んだ主屋下屋^{おもやげや}と離れ浴室の屋根の吹き替え工事を行っております。

今回、一般家庭では見ることのない「土居ぶき^{どいぶき}」の工事過程を見てもらうために見学会を実施したものであります。

「土居ぶき」は、瓦ぶきの下地として、長さ約30cm、幅10cmほどの薄いサワラの板をずらしながら重ね、竹くぎで固定するという工法であります。

当日は、施工を担当している職人さんから、道具や材料、ぶき方の説明を受けたあと、実際の工事現場を見学し、サワラの板に竹くぎを打つ体験も行いました。

また、この日は旧林家住宅の茶室において、岡工の茶華道部^{きかどうぶ}による呈茶^{ていちゃ}も行われ、多くの方に来館いただき、大変うれしく思っているところであります。

これをきっかけに文化財に興味を持っていただけたらと期待するところであります。

さて、朝晩めっきり涼しくなり、過ごしやすい日も増えてきました。秋は夜が長く一人静かに過ごせる時間も増えます。「読書の秋」、岡谷図書館に足を運んでいただき、お気に入りの1冊を見つけてみてはいかがでしょうか。

続いて、スポーツ振興課関連を報告させていただきます。

第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」が10月1日から栃木県で開催されています。

岩本教育長： 国民体育大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により3年ぶりの開催となりますが、感染防止対策を徹底したうえで11日間の日程で行われております。

今大会の岡谷市関係の出場者は、卓球やバレーボールなど11競技に選手30名と、監督、コーチ6名の計36名で、2019年の前大会よりも3競技、14名多い参加状況となっております。

大会開催前には、岡谷市関係者の壮行会を開催し、大会で素晴らしい成果をあげられるよう、激励の言葉とともに、熱いエールを込めた大きな拍手を送らせていただきました。

国体も後半戦を迎えておりますが、長野県や岡谷市の代表としての誇りを胸に、選手の皆さんの活躍を心から期待しているところであります。

私からの報告は以上であります。

ただ今、報告した内容に関して、教育委員の皆様から何か質問はございますか。よろしいでしょうか。それでは、本日の議事に入ります。

○議 題

1. 令和4年度全国学力・学習状況調査結果について（学びの創生・連携支援室）

＜資料1に基づき、事務局より説明＞

岩本教育長： このことについて、ご質問、ご意見一緒に結構ですので、どんなところからでも質問ありましたら、お願いいたします。

草間職務代理者： 今の報告の中で、評価については理解できました。今後、さらに伸ばしていくために学校においても家庭においてもいろいろと考えなければいけないと思いますが、資料No.1-②の「おかやの子のすがた」のところを拝見しますと、一番上に「先生は自分のよさを認めてくれる」と先生とよい関係を築きながら学校生活を送っているという項目がありますが、一番上に挙げている理由は何かあるのでしょうか。

事務局（瀨）： 家庭にお願いしていることとして、自己肯定感、自己有用感を育んでいくために、家庭でもお子さんが頑張っていることについて、肯定的な声掛けをしていただきたいのに関連して、まずは目にしてほしいということで挙げてあります。それから、結果としても、全国平均、県平均よりもかなり有意に高い数字が出ておりましたので、特に強調してお伝えしたいと思いました。

草間職務代理者： 私もずっと共感していることで、いつも教育長先生がおっしゃっているし、8月のおかや子育て憲章制定20周年記念講演会でも自己肯定感について、明橋先生からお話をお聞きしたところでした。岡谷の子どもたちに自己肯定感を高めるような施策を強力に進めていただくことで、学習能力が向上するし、また日常生活や学校生活がより充実したものになると感じ

草間職務代理者： ました。良いところをさらに充実させて、子どもたちの自己肯定感を高めることに全力を挙げていただくことが子どもたちの成長にとって、非常に良い結果につながると思います。

朝、岡谷田中小学校の子供達の見守りをしていると校長先生から学校便りを頂くことがあります。9月の学校便りの中で、岡谷田中小学校のPTAの方が諏訪地区PTA連合会の三行詩コンクールにおいて、優秀賞を受賞されたという内容が紹介されており、素晴らしい詩でしたので、この場で朗読させていただきたいと思います。これが全てだと思いました。

「この家に生まれてよかった」と、笑顔で言ってくれるあなたこそ、私たちのもとに生まれてきてくれてありがとう。

家庭で子どもたちを尊重し、親も前向きにこのような考えを持って、学校、家庭、また地域で結びつくと、これからの子どもたちの成長につながると思います。そして、子どもたちのためには自己肯定感を高めていくことが一番重要だということを教育長先生も一貫してずっとおっしゃっていたので、今回、一番上の場所に掲載していただけて大変感激しました。ありがとうございます。

小平教育委員： 私もこのような良い結果が出て、大変嬉しく思いました。

先生が自分を認めてくれているというのが子どもたちからも見えているというのは、先生方の取り組み方がとても素晴らしいのだと思います。生活習慣も比較的良いということで、これは保護者の皆さんがすごく良い環境を作っているのだと安心しました。

先ほど、濱先生からご説明がありました「テストで測ることのできない力」というのは、やはり自己肯定感から生まれてくると思います。勉強は一生続いていくものですので、長い期間にわたり、前向きな気持ちでやる気やモチベーションを出して取り組んでいくという力は自己肯定感から生まれるものだと思いますので、いい方向へ向かっているというと思います。

また、家庭に向けたこのプリントもものすごくよくまとまっていると感じました。温かな言葉のシャワーというのは本当に大切だと思っていて、地域性なのかもしれないですが、諏訪地域の人達というのはけっこう言葉がきついというか、辛口という話を聞いたことがあります。そういうところからも、自分には良いところがあると考えている児童・生徒がやや少ないというのはもしかしたらそういう地域性もあるのかなとも思います。先生方も、子どもたちに対して否定せず、お互いに歩み寄って決めましょうという方向性で取り組んでいただいていると思います。

あと、理科が平均を上回っているということですが、なぜだろうと疑問に思いました。自然が身近にあるからなのか、先生方が何か工夫されているのか、どのように分析されているかを教えてください。

事務局（濱）： 例えば、メスシリンダーという理科の実験器具がありまして、液体の量を正確に測り取るためのものですが、このメスシリンダーという器具の名前を答えられた児童は全国・県の平均よりも少し低かったのですが、メス

事務局（濱）： シリンダーの液面を正しく読み取って、どのくらいの量が入っているかを正確に読み取ることができた児童は全国・県平均より高い解答率だという結果が出ました。プラスの面とマイナスの面がそれぞれあるとは思いますが、これが意味することは器具の名前は知らなくても、実験はしっかりやっているということですね。岡谷市内の小中学校の理科の学習の学び方ではしっかりと理科の教科性に合わせて進めてくださっており、実際の実験や観察を丁寧に行っていたということがこの結果からもよく分かると思いました。

高木教育委員： 私もおかやの子のすがたの最初に「先生は自分の良さは認めてくれる」というのがあって、本当に岡谷の子どもたちがいい学校だと思ってくれているのが分かり、とても嬉しく思いました。

子どもたちの自己肯定感を高めるというのはすごく大切なことだと思うのですが、まず、大人が自分を認めて、自分を大切にできるということが基本にあって、だからこそ、子どもたちを大切にできるのだと思っていますので、そういう意味でも、岡谷市全体の大人がいつも楽しく生活できるようになったら、きっと子どもたちの自己肯定感をもっと高まっていくのだらうなと感じています。

また、読書が好きな児童・生徒が多いというのは本当に嬉しいことですが、その反面、中学ではその3人に1人が全く読まないというところが大きく矛盾をしている気がします。3人に1人が全く読まないというとならないことが普通になってしまっている気がして心配です。

ただ、本は読まないけれども、今の子どもたちが字を全く読まないかというとはそうではなく、スマートフォンやネット上の情報は相当読んでいるので、もしかしたら全く読まないお子さんが余計にそういうネット上の情報を読んでいるのかもしれないとなると、どのようにしていったらいいのかはわかりませんが、考えていかなければいけない問題だと思います。

太田教育委員： 全体的に非常にいい方向に進んでいるのが感じられる調査結果に大変嬉しく思います。勉強が好きと回答した生徒が非常に多いとあり、義務教育でもちろん身につけてもらいたい要素というのはたくさんありますが、最終的には学ぶことそのものの面白さ、楽しさ、学ぶことそのものが好きという気持ちが子ども達の中に出来上がってくれることが一番大事なことでと思います。そういう意味では、今回の結果はとても心強く思います。

また、課題のところで一つ気になる点があり、家庭学習の時間が全国平均、それから県平均と比べても低いということですが、この場合の家庭学習というのは、正確な定義ができるとは思いますが、どんなイメージで捉えればいいでしょうか。

家庭での学習というのは、私は必ずしも机に座って学校と同じような勉強をやることだけが必要なことではないと思っていて、例えば、家でお手伝いをしたり、自営業をやっている方で、そういうお子さん今は少ないかもしれませんが、学校から帰ってきて、親の仕事の手伝いをするなど、そういうこともとても大事なことでと思います。最近では、これがゲーム

太田教育委員： の時間やYouTubeを見る時間、SNSばかりやっている時間だとあまりよくないと個人的には思いますが、それ以外で、学校を離れた時に離れた場所だからこそできること、好きなことに没頭するようなことも必要で、必ずしも一概に全国平均や県平均から低いからいけないとは言えないと思っています。

ここで、とらえている家庭学習というのはどんなイメージなのかを教えてください。

事務局（濱）： 実際の質問用紙の問いは「学校の授業以外に普段、月曜日から金曜日で1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか、学習塾や家庭教師の時間等を含む」となっています。

例えば、家庭でのお手伝い等を通じて家庭で学べること、それから社会に出て学べるようなことは含まれていないのではないかと思います。

ただ、子どもたちがその問いに対して、どのように受け取って、どう回答したかはその子その子によって違いますので、この問いに対して、このような結果が出ているということでご承知いただければと思います。

太田教育委員： そうすると、どちらかというと机に座って行う勉強のイメージが基本的には強いというとらえ方でいいですね。わかりました。

草間職務代理者： 先ほど、テストの無解答率が低くなってきたとあり、子どもたちが頑張って答えを書こうとしているということだと思います。今まであまり無解答率という言葉が出てこなかったのですが、今年にこの数字が良くなったというのは何か、学校で特別な授業をやっているのか、あるいはそういう指導をされているのでしょうか。

事務局（濱）： 小学校では、単元のまとめを行うテスト等を通じて取り組んでいると思います。もっと言うと、1時間1時間の授業の中で、様々な問題に子どもたちが取り組んでいるのですが、その中でも最後まで諦めずに取り組むことの良さについては、先生方が常々触れているところかと思います。

中学生でも、期末テスト等の定期テストに取り組むときに、最後まで頑張れという声掛けもしているでしょうし、頑張っている子どもたちを認める声掛けもしてくださっていると思いますので、日々の積み重ねによるものだと思います。

草間職務代理者： はい。ありがとうございます。

岩本教育長： 大変貴重なご意見を寄せていただき、ありがとうございます。

高木委員さんから読書のことに触れていただきました。実はほとんどの学校で朝読書をやっています。ですので、1日全く本を読まないということはないと思いますが、これは家庭での読書ということですね。

特に中学生は本当に忙しいので、毎日10分であっても学校で毎日読むというのは大変貴重な時間でまずはそれを活かしてほしいと思います。秋の夜長に本を出してきて少し読んでみるというのが習慣になるというのは生涯にわたって大事なことでと思いますので、その点をさらに呼びかけてまいりたいと思います。

岩本教育長：

やはり家庭でも頑張ってやっていただかないと、なかなか学校の先生からの呼びかけだけでは難しい部分があると思います。

また、家庭学習については、ただ学校で先生から出される、いわゆる宿題をやることだけが家庭学習ではないということを先生方から意識改革していただいておりますが、保護者の皆さんの意識がまだ変わらないというのが現実だと思います。「宿題終わったら遊びに行ってもいいよ」という言い方をしますよね。だから、それさえ終わればいいんだという事ではなく、自分のやりたいことや家族でやってもらいたいということも含めて、家庭の中で役割をしっかりと作っていただく。また、その中で自分がやれることをやっていくということがあなたにとっても大事な勉強の一つなんだよということを子どもたちに言える保護者の皆さんになっていただきたいというのが大きな願いであります。

この全国学力・学習状況調査の結果からいろいろなことが見えてきますので、校長会等でも一つ一つ丁寧に扱っており、大事にしていきたいと思っております。

いずれにしましても、今年度の結果を見て、子どもたちの成長、そして、先生方の頑張りという点も見えてきたことは私自身大変うれしく思っているところであります。

結果の概要については報告の通りであります。単に正答率が高い、低いとそれだけで判断するのではなく、子どもたちの学びの姿、あるいは先生方の授業改善の取り組みの仕方、そういったところをしっかりと見ながら市教委としても大いに応援しながら、学力向上という大きな課題に対して、取り組んでいきたいと思っております。

それから、家庭にはこれをしっかりと発信し、家庭の保護者の皆さんも同じ気持ちで一緒に取り組んでいただくことが大事ですが、これから校長講話やPTAの授業参観の折など、いろいろな機会を通して、濱主任指導主事から説明していただいた内容を皆さんにもう少し丁寧に説明をして、ご理解をいただきながら進めていく取り組みも必要だと思っております。

今年度から学びの創生・連携支援室を立ち上げて、一層学力向上を図ってきているわけですが、その効果が少しずつ見えてきており、ありがたく思っております。

最後に、今日学力向上アドバイザーの宮坂先生もおいでになっていますので、授業参加や先生方といろいろな話をする中で、岡谷の子どもたちの学びの様子や、あるいは先生方の授業改善の取り組みなどで、何かお気づきの点がありましたら、一言お願いいたします。

事務局(宮坂)：

濱先生、花岡先生と一緒に各校の要請や私たちから学校へ行って、各校の授業等を見させていただく中で、先生方の意識が大きく変わってきていると感じております。

松木先生のご講演にもありましたが、知識や学びというのはテストの点数を取るだけでなく、子どもたちが自分から勉強したい、生涯にわたって学びを続けたい、そういった気持ちを沸き起こしていくところに

事務局（宮坂）： あるのだと思います。

そういった意味では、ある学校で60歳を過ぎて一度退職され、再任用の先生方でも、苦手なICTの教育について、私も含め、自分からはなかなか手が出しづらいところがありますが、学校の職員が職員研修という名のもとに一丸になって、機器の扱い方や実際の授業での利用等について学習していく中で、子どもたちのために、子どもたちの理解が進むようにという動きが始まっているのが大きな変化だと思います。

我々も3人で学校に行きながら、先生方の学ぶ意欲を、子どもとともに学ぶ意欲を喚起できるよう日々取り組んでおりました。今後もそんなところを大事にしていきたいと思っております。

岩本教育長： ありがとうございます。生涯を通じて学ぶ、その姿を子どもにも培いたいし、今後、先生方にも示していくというその大切さを教えていただきました。

本年度の結果につきましては、資料の通り、公表していきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

<異議なし>

それでは、議題1は以上としまして、続いて、議題2としまして、「いじめ・不登校の状況について（上半期）」について、事務局より説明をお願いいたします。

2. いじめ・不登校の状況について（上半期）（教育総務課）

<資料2に基づき、事務局より説明>

岩本教育長： いじめと長期欠席に関わる報告をいただきました。最初にいじめについて、意見交換をさせていただきたいと思います。ただいまの説明について、ご質問あるいはご意見等ございましたらお願いします。

高木教育委員： 今、宮坂先生のいじめに関するお話をお聞きして、先ほどのおかやの子のすがたと非常に共通している部分が多く、おかやの子のすがたが本当によく表れていると感じました。一つは、学校のアンケート調査でいじめが発覚するという数字がアップしてきているという点です。先生が自分の良さを認めてくれるという先生と子どもとの信頼関係があつてこそ、アンケートに書いても大丈夫だと考えて、書いてくれるのだと思います。この数字がアップしてきていることは本当にありがたいことで、先生方のご努力の賜物ではないかと思いました。

その中でも、誰にも相談していないという子どもがわずかでもいるというのが気がかりで、誰にも言えない心の重荷を抱えている子どもを何とか救っていかれたらと思います。今後もよろしくお願いいたします。

太田教育委員： 私も高木教育委員と同じで、学校のアンケートによる補足率が上がっているというのは、学校を挙げて、いろんな努力を積み重ねてきていただい

太田教育委員： た結果だと思うので、これはとても良いことだと思っています。これから
もぜひ継続をお願いしたいと思います。

また、これは個人的なとらえ方ですが、私はこの周囲の児童・生徒からの
情報というのが実は上がって欲しいという気がします。やはり、子ども
にとって、学校は重要な社会だと思いますので、その中で自分の位置付け、
他者の位置付けというものを自然と身につけていく、そういう環境だと思
っています。その時に、周りの子どもたちが、あの子はちょっと辛そうに
しているなというのを感じ取る力が伸びてくるのが非常に大事なことだ
と思っています。それを感じとって、自分で勇気を持って、一歩踏み出し
て行動し、その子に声をかけたり、或いはそこまで出来ないにしても、先
生に相談をしたり出来るようになることで、周りにそういうことをしてく
れる友達がいるんだという事実が学校に来れる動機になったり、その子ど
もを支える力になったりすると思います。

大人と子どもの関係ではなかなか超えられないものが、子ども同士の関
係の中で勇気づけられるということは非常に大きいと思っています。これ
は比率の問題ですので、このパーセンテージを上げるというのは簡単では
ないと思います。また、ただ単純に数字の上下で判断できるものではない
と思いますが、周りのお友達が「これはまずいよね」と声を上げてくれる
ような学校になってもらえたらいいなと個人的には感じました。

小平教育委員： いろんな取り組みの効果が出ているということで、いじめ根絶会議やあ
るいはパソコンや携帯電話による誹謗中傷についても、インターネットの
マナー教育が行き渡ってきたと感じています。

あと、南部中学校で作ったメッセージのお互いを認め合う、違いを認め
るというのは良い言葉だなあと私も感じました。今、多様性ということが
しきりに言われていますが、お互いを認め合いましょう、リスペクトする
というのも生徒の言葉から発せられているということで考えが浸透して
きて、良い方向に繋がっていると感じました。

データの件で、少し不思議に思ったのが平成30年度、令和元年度の件
数が特別多いのは、何か原因があるのでしょうか。

最近はいじめ認知件数の数字が少なくなってきたというのもいろんな
意味合いがあると思いますが、引き続き、数字をしっかりと見ていただけ
るとありがたいと思いました。

事務局 (増沢)： このいじめの認知件数について、この資料は平成29年度から設定をし
ておりますが、その前からも調査しております。一番大きい要因としまし
て、平成30年度からいじめのとらえ方を変えた部分がございます。

各学校で小さな事案も見逃さないように積極的に認知をしていくとい
うことで、些細なことであっても、その行為を受けた児童・生徒が切ない
と感じたり、自分からしてみたらそんなつもりがなく、逆に好意を持って
やってしまったとしても、相手が嫌だなど思うのであればそれはいじめで
あるという考えで、そういった小さな事案も積極的に捉えた結果がこの平
成30年度の増加につながった部分であると考えています。

事務局（増沢）： 令和元度も引き続き、学校全体にそのいじめの捉え方が先生方にも認識されて、このような数字で推移しておりました。令和2年度は新型コロナウイルス感染症により一斉休校が4月、5月と2ヶ月ほどあり、まずそこで2ヶ月間少なくなっております。

また、コロナ禍において、ソーシャルディスタンスを取った感染対策や分散登校でなかなか子ども達同士の関わりが減ってしまったということ
で件数が大きく落ちたと推測しております。

草間職務代理者： 岡谷市にはいじめについて、長年取り組んできた結果としていじめがこうやって表立って出てきているという点が非常に良いと思います。

いじめの状況はわかりましたが、子どもたちがいじめ根絶会議でいじめを無くすにはどうしたらいいかという意見等は出ているのでしょうか。

根本的にいじめを無くすには、どのようにしたらいいのか、そういった意見をお聞かせ願いたいと思います。

事務局（宮坂）： 今年、南部中学校で行った会議の中で、具体的な言葉の中から、まずは現状を知ること、そして、学校でのいじめが広がる、その言動にアンテナを高くしていくということ、そんなことが子どもたちの中で意見として出てきました。今回のテーマが「このイジリってOK?NG?」というテーマでした。これはNHKのFor Schoolのものを使ったわけですが、子どもたちからは、ごく親しい間柄だったら、名字や名前ではなくて、あだ名で呼んでもいいよねと考えている子もいますし、さん付けで言わなければいけないだろうねと考えている方もいるので、その理由を話し合うところを各学校で大事にしていこう、そんなところが具体的に出されたところ
であります。

岩本教育長： 他にはよろしいでしょうか。それでは次に不登校に進みたいと思います。
す。不登校に関してはご意見等ありますか。

太田教育委員： 先ほど、増沢統括主幹からもお話があったとおり、件数もそうですが、率で見るとやはり全体の子ども数が減っている中での件数ですから、残念ながらじわじわと上がってきているという受けとめ方ができると思います。その時に不登校に関しては、先ほどお話があったように、本当の原因がどこにあるかわからないというのは、非常に難しいし、重要なところ
だと思います。いろんな形で相談出来る機会もしくは場というものを作る努力はしてきていると思いますので、引き続き、地道に続けていただく
ことしかないのかなと感じております。子どもだけでなく、大人の社会でも、以前と比べるといろんな形で心の病、そういう症状を呈する人も増えてきている世の中ですので、安易に家庭が原因だ、学校でこういうことがあったのが原因だとやってしまうこと、そのものがマイナスになる可能性も十分あり得ると思います。大変だと思いますが、できるだけ一人一人のお子さんと向き合って丁寧に対応していくという体制を維持していただく
ことが一番大事だと思っております。

高木教育委員： 学校ではそれぞれの違いを認めて、その良さも認めて、子どもたちの中でもそれが出来るようになってきて、多様化に対応して、学校の居場所もいろいろあるようになってきているので、年々良い環境になってきていると思います。それでも先ほど太田教育委員の意見にあったように本人に関わる問題が60%とあり、社会全体の変化が非常に激しくて、追いついていけないような状況になってきているということが大きく影響しているという気がします。なかなか、小学校、中学校という段階だけではどうにもならないので、おかや絹結プログラムのようなプログラムが出来て、幼稚園、保育園からもつなげていくというのが岡谷市の大きなポイントになると思いますので、今後も粘り強く一人一人のお子さんに対応していただきたいと思います。よろしくお願いします。

小平教育委員： いじめによる不登校がとても少ないという事に驚いています。それとは別に、6割の原因が無気力や不安から来ているということで、これは詳しい分析が必要なところに来ていて、きっと社会もそのようになってきているのだと感じました。今、高木教育委員がおっしゃったように、環境としては学校でもいろんな形で受け入れをしていただいている様子が学校訪問の際も見受けられました。学校の裏口から入ってきた子どもに対して先生方が温かく受け入れていて、中間教室ですかね、とても良い環境が用意されていると思います。それでも学校に来られないというのは、その子の特性や生まれ持ったものがあるのだと思いますが、そういうのも含めて、いろいろな分析の結果がもう少し知りたいと思いました。

そもそも、不登校は悪いみたいなことを言われることがあり、保護者の方もすごく不安を感じていて、それがまた子どもにプレッシャーをかけてしまい、悪循環になるということだけは無くしていかないといけないと思います。その辺は支援会議を通じて、保護者も含め、サポートしていただいていると思います。

全体を通じて、皆さんが本当に良くしていこうという動きがとても感じられますので、今後、さらに良くしていくためにも、分析等していただいていろいろ教えていただきたいと思います。

草間職務代理者： 本当に不登校は一人一人、原因やその問題がそれぞれ違うので、一律の対応ができないと思います。学校としては子ども達と接触する機会を多く持つことがもっと必要だと思います。

今、岡谷市ではリモートのICT機器が全校に配備されていますので、先生が不登校の子どもたちの声を毎日、一言「元気か」と聞くだけでも良いと思います。そうやって、子ども達が学校に行きやすい環境を整えていって、子どもの悩み等を少しでも先生が理解できるように機器を活用してもらいたいと思います。

子どもも学校へ行かなくなると、余計に行けなくなってしまうんですね。先生がリモートで一言「おはよう」などの声をかけてやれば、子ども達の敷居はかなり低くなると思いますので、ぜひ接触の機会を増やす方向で進めていただきたいと思います。

事務局（増沢）： 前から実践しておりますが、実際に家庭にタブレット端末を貸し出して、ドリル学習だけではなく、「Google Meet」という配信アプリを使って、授業の様子を家庭で見えるように流して、学校との繋がりを切らないようにしているケースもあります。

また、自宅にいとどうしても生活のリズムが崩れがちになるので、本人・保護者の方とお話し合いをして、毎朝ログインして挨拶をしよう、そういった約束を毎日続けているケースもありますので、一人一台端末を有効に活用したいと考えています。

岩本教育長： 本当にいろいろな視点からご意見をいただきました。ありがとうございました。いじめについては、本当にこれまでの取り組みが少しずつ良い方向に向いてきていると思います。

特に子どもたち自身がいじめを無くそうという気持ちを強く持って、具体的な行動に移すというのが岡谷市の一番の特徴であると思っていますが、それがとても有効に働いていると思います。

ただ、いじめというのはこうやって、形として見えるものは良いですが、見逃しているものはないかといつも気を引き締めていかなければいけないと私は思っています。気が緩んだところに大変ないじめが起こっている、これが全国での状況であると思います。

子どもたちも先生方もそして私たちもみんなでこのいじめということについて、しっかりとアンテナを高くし、お互いに居心地の良い状況をつくり出していくのが大事だと思います。

それから不登校については、先ほど無気力のお話が出ましたが、実は無気力というのは昔から言われております。ですが、徐々にその無気力で休むという割合が高くなってきていて、それが非常に憂慮すべきことだと思います。

自分でもどうしても休むかわからないというのは、一番対応が難しいと言えます。私はいろいろな文献等を読む中で、無気力になる一つの要因として、あくまでも一つの要因ですが、保育園や幼稚園或いは小学校の低学年の時に安易に休むということが許される環境にあったり、逆に親が家族で出かけるのを理由に今日は学校を休みなさいといったように休むことに対して抵抗感がないような状況にしてしまう。そうすると、高学年になって、少し嫌なことがあれば休む、或いはもう今日は嫌だなと思ったら休む。月曜日病という言葉があり、人間誰しもなかなか行きにくいという気持ちになることもあるわけですが、それに負けてしまうのは小さい時のそういったことが要因になっているということが最近言われるようになってきました。だからこそ、幼保小の連携、或いは幼保小中の連携ということで、そういった問題を防いでいくこと、小一プロブレムなど、様々な問題も子どもの育ちの中でしっかりと私達が考えて手を入れていかなければいけないと思います。

そして、最終的には一人一人の子どもにどれだけ自立の力をつけてあげられるか、或いは人間関係力、人とうまく協調しつつ、折り合いをつけて

岩本教育長： やっていく力をしっかりと身に着けていくことが必要だと思います。

よく言われるのは異年齢集団での生活、経験、そういったものが大変役に立つという報告もあります。これから岡谷市の方向とすれば、一人一人のそういった力を高めていくためにいろいろな手だてを講じていく必要があると思います。

それからもう一つ気がかりなのはゲーム障害、SNSでのトラブルが起因して、いじめが起きたり、不登校になっていることがあるように思います。なかなか私たちが見えないところ、保護者の方も見えないところで、いろいろなことが進んでいってしまうということを危惧しているわけですが、だからこそ皆で力を合わせて、子どもたちをしっかりと見守って、良い支援をする必要があると思います。

現在、子ども総合相談センターの先生方、或いは学びの創生・連携支援室の先生方を中心に取り組んでいただいているわけですが、当然、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家の方も一緒に加わっていただき、みんなで連携して、子どもたちをしっかりと見守り、そして応援をしていくという体制が大事だと思っております。

地道な取り組みこそ、私は一番大切なことだと思っておりますので、こういった数字を基にしながら、さらに、先生方と力を合わせて、子どもたちがよりよい学校生活を送れるように頑張っていきたいと思っております。

それでは、今日、上半期の報告ということでさせていただきましたが、これについても、必要に応じて公表をしていくということでよろしいでしょうか。

<異議なし>

ありがとうございました。それでは、本日の議題は以上となりまして、報告事項に移ります。

報告事項1として、「岡谷市教育委員会点検・評価報告書」について、事務局より説明をお願いいたします。

○報告事項

1. 岡谷市教育委員会点検・評価報告書（全課）

<資料3に基づき、事務局より説明>

岩本教育長： 何か質問や意見がありましたらお願いします。

よろしいでしょうか。またお時間がある際にお読みいただいて、ぜひご意見をいただきたいと思います。

続きまして、報告事項2、「令和5年度予算編成方針について」、事務局より説明をお願いします。

2. 令和5年度予算編成方針について（全課）

＜資料4に基づき、事務局より説明＞

岩本教育長： これについても、またご覧いただければと思います。
続きまして、報告事項3、「アスリートフェスティバルinおかや」について、事務局より説明をお願いします。

3. アスリートフェスティバル in おかや（スポーツ振興課）

＜資料5に基づき、事務局より説明＞

岩本教育長： 100メートルのベスト記録は10秒09。3年連続日本一ということで、すごい選手が岡谷から出たなぁと改めて思いました。

太田教育委員： でも東部中学校時代は2番手だったんですね。その1番早かった方がどうなったか気になりますね。

岩本教育長： そうですね。人間的にも非常に大きい感じがしまして、まだ年齢は40歳にならないと思いますが、素晴らしい選手でとても敵わないなぁと思いました。

この日、多くの子どもたちが集まってくれたわけですが、第2第3の塚原選手になってくれれば嬉しいと思いながら、見ておりました。

それでは、よろしいでしょうか。報告事項は以上でございます。

先に進めます。【その他】であります。行事等について、事務局よりお願いいたします。

○その他

・行事等について（各課）

＜各課より行事予定について説明＞

岩本教育長： 何か、ご質問等ございますか。よろしいでしょうか。教育委員の皆さんから何かありましたらどうぞ。

高木教育委員： 東部中学校の校庭が陸上競技場の公認更新は行わないということですが、使用の方法等が変わったりするのでしょうか。

事務局（小松）： 使用方法などは特に変わりません。春と秋にやっている陸上競技大会については、通常通り行っていきます。その他にも陸上教室などもやっておりますので、特に変わるものはありません。陸上競技場としても維持をしていくために傷んだところなどがあれば、整備もして参ります。

ただし、公認が外れてしまうということで、大会の公式記録として申請が出来なくなりますので、近隣に茅野市の陸上競技場や下諏訪町の陸上競

事務局（小松）： 技場が公認となっておりますので、公式の大会についてはそれらの会場を使って、開催するようになります。

岩本教育長： 他はよろしいですか。それでは、次回の定例教育委員会の予定をお願いいたします。

事務局（両角）： 次回の定例教育委員会は、令和4年11月8日（火）13時30分～岡谷市民総合体育館 第一会議室をご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

岩本教育長： それでは、以上で本日の定例教育委員会を終了いたします。
この後、教育委員協議会を開催したいと思いますので よろしく願いいたします。

11時25分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第20条により署名する。

令和 4 年 11 月 8 日

教 育 長

岩本博行

署 名 委 員

高木千奈美

署 名 委 員

太田博久

調 製 職 員

白上 淳